

学校説明資料

[公開日] 2023年4月13日



情報科学芸術大学院大学

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

特色と概要

本学の特色

- 「科学的知性と芸術的感性の融合」が建学の理念、総合的な知を探求し、新しい文化を提案する岐阜県立の大学院大学
- **メディア表現**研究科1専攻、博士前期課程[修士]+博士後期課程[博士]
- アート、デザイン、工学、社会科学など多様な分野の**領域横断を研究実践**

科学的知性と芸術的感性の融合とは

- 単に科学と芸術という異なる分野を掛け合わせるという意味ではない
- テクノロジーと社会の関係を踏まえつつ、自ら社会と向き合い、実践により裏付けされた真の価値を深く洞察する研究活動
- 多様な領域を横断しながら、つくることを通じて「**制作の知**」を見出し、新たな文化の創出へ貢献すると同時に社会を先導することを目指す

課程(+研究生)

- **博士前期課程:修士(メディア表現)**
 - [在学] 2年間 社会人短期在学コース 1年間
 - [定員] 40人(1学年20人×2学年)
- **研究生(博士前期課程の前後)**
 - [在学] 1年間以内(+1年間)
 - [定員] 若干名
- **博士後期課程:博士(メディア表現)**
 - [在学] 3年間
 - [定員] 9人(1学年3人×3学年)

卒業生 (IAMAS Graduate Interviewsより)



ウエヤマトモコ (音と人・ミミ島 代表)



内田聖良
(コンテンポラリーサーキットベンダー/美術家)



菅野 創 (メディアアーティスト)



高尾俊介 (クリエイティブコーダー)



平塚弥生
(フードビジネスコンサルタント, 株式会社Coneru代表)



真鍋大度 (株式会社Rhizomatiks取締役)



三原聡一郎 (アーティスト)



山辺真幸 (データビジュアルライズデザイナー)

これまでの研究 (IAMAS Annualより)



白石覚也 《Inclusion》



西本昂生 《ライフログアポトーシス》



伏田昌弘 《Avatar Jockey》



森田了 《Sar/on rails》



木村佳 《創造的解釈》



水谷珠美 《ゆめの中継；状況の上書き1》



養毛雄吾 《time in space, space in time》



守下誠 《ARama!》

学生情報

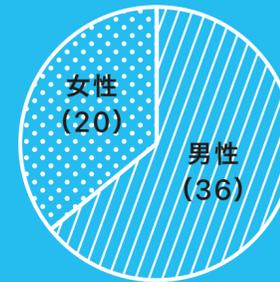
出身地



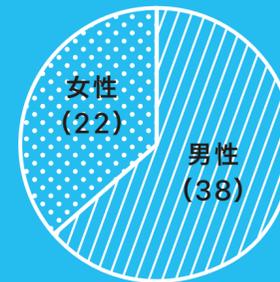
()内の数字は上から、
2020、2021、2022年度の人数

性別

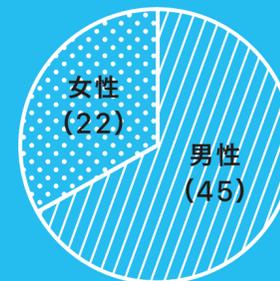
2020年度



2021年度

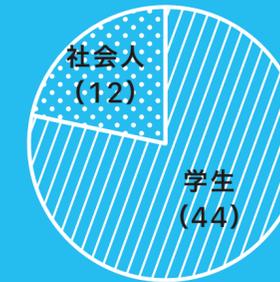


2022年度

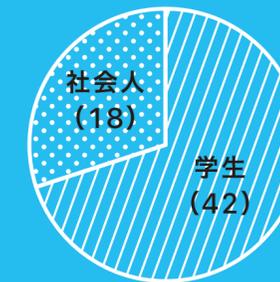


入学時

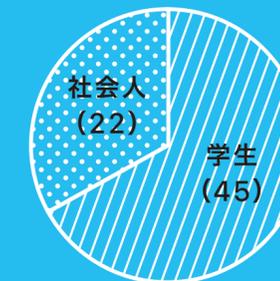
2020年度



2021年度

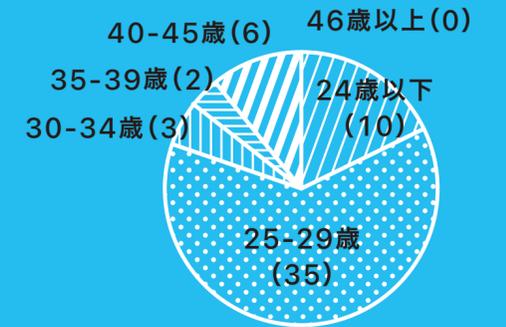


2022年度

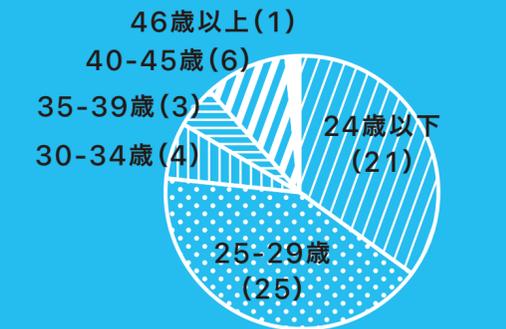


年齢

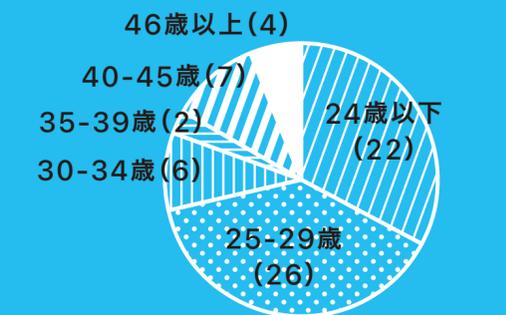
2020年度



2021年度



2022年度



卒業生の主な進路

就職：一般企業

(株)アマナ
(株)イメージソース
(株)インフォファーム
(株)FBCアドサービス
面白法人カヤック
キャリアオ技研(株)
(株)ケイズデザインラボ
(株)コルグ
(株)サイバーエージェント
(株)新東通信
(株)ソフトデバイス
(株)ゼオ
ソニー(株)
タック(株)
大日コンサルタント(株)
(株)丹青社
チームラボ(株)
(株)電通
(株)桃鶴堂
(株)二番工房
日本システム開発(株)
(株)日本テレビアート
日本放送協会
(株)乃村工芸社
(株)Hakbee Lanka
(株)博報堂プロダクツ
(株)バスキュール
任天堂(株)
ユカイ工学(株)
(株)ライゾマティクス
1→10drive

ANKR DESIGN
BANZAI CREATIVE
N and R Foldings Japan
Noiz Architects
SKテレコム(韓国)
SOLIZE engineering
(株)TAB

就職：文化施設

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]
京都市芸術文化協会京都芸術センター
高知県立美術館
静岡県舞台芸術センター
せんだいメディアテーク
シビック・クリエイティブ・ベース東京[CCBT]
長野県大町市地域おこし協力隊
日本科学未来館
都城市立図書館
山口情報芸術センター[YCAM]

就職：教育・研究機関

愛知県立芸術大学
秋田公立美術大学
関西学院大学
京都精華大学
京都造形芸術大学(現:京都芸術大学)
神戸芸術工科大学
女子美術大学
静岡文化芸術大学
椋山女学園大学

成安造形大学
多摩美術大学
東京藝術大学
同志社女子大学
名古屋音楽大学
名古屋学芸大学
名古屋芸術大学
名古屋造形大学
名古屋文理大学
広島市立大学
武蔵野美術大学

起業

アライアンス・ポート(株)
アイティア(株)
(株)エージーリミテッド
(同)「E」
(株)grasp at the air
グレイセル(株)
(株)GOCCO.
セミトランスペアレントデザイン
(株)ソネル
(有)トリガーデバイス
動画まわり
南原食堂
(株)HAUS
(株)バックスペースプロダクション
(同)マスラックス
(株)間チルダ
(株)メタファー
(株)ライゾマティクス

進学

愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程
大阪大学人間科学研究科博士後期課程
大阪大学人間科学研究科
岐阜大学大学院工学研究科博士後期課程
京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程
慶應義塾大学大学院後期博士課程
筑波大学大学院博士課程
東京藝術大学大学院映像研究科博士課程
東京藝術大学大学院音楽研究科博士課程
名古屋市立大学大学院博士後期課程
名古屋大学大学院情報科学研究科博士課程
リンツ美術工芸大学博士課程(オーストリア)
ロイヤルカレッジオブアート(イギリス)

研究環境

- 夏季・冬季・春季休業期間も含め、24時間使える（一部例外あり）
- 他の国公立大学と同様に学費が安く、寮も完備されており、都市部と比較して生活費も低い
- 寮には光ファイバーのネットワーク環境が整備されており、学生にPC (MacBook Pro) がAdobe CCなど各種ライセンス付きで貸与されるなど、対面とオンラインの両方に対応できる

施設紹介

2つの校舎があるキャンパスは、2014年度からソフトピアジャパンという先進情報産業エリアに移転し、集積企業をはじめ産学連携の新たなイノベーション創出拠点としての役割が期待されています。

学生は、校舎内の施設を原則365日・24時間使用し、研究に取り組むことができます（図書館、イノベーション工房、金工室、木工室、システム管理室の利用は平日の日中のみ）。

ワークショップ24

学生の研究スペースとなるロフトやプロジェクト室のほか、イノベーション工房や図書館のある施設



ソフトピアジャパンセンタービル

教員室のほか、さまざまな専門的スタジオやシアター、ギャラリーがある施設



ロフト

ワークショップ24 | 5F

同じフロアで分野や学年をまたいで交流しながら研究制作を行なう共有スペース。個人研究や制作に必要なPCとアプリケーションの貸与と一人一人専用のスペースを確保し、存分に24時間利用できる環境を備えています。

施設紹介



ギャラリー センタービル | 3F
作品展示のほか、コンサートやワークショップなどにも使用可能な多目的スペースです。



シアター センタービル | 3F
HDプロジェクターを備えたミニシアターです。映像作品や資料を閲覧できます。ミニレクチャー、プレゼンテーションスペースとしても活用できます。



デザインスタジオ センタービル | 3F
印刷物の出力・加工を目的とした部屋。カラーレーザープリンタ、大判インクジェットプリンタ、カッティングプロッター、断裁機など、さまざまな制作機器を配備しています。



ビジュアルスタジオ センタービル | 3F
白ホリゾントの撮影用スタジオ。画像合成のためのブルーバック撮影が可能です。カメラやモニター、ライト、クレーン、ドリー等の撮影用機材一式を備え、ストロボやディフューザーなど写真撮影にも対応しています。



プロジェクト室 ワークショップ24 | 5F
プロジェクトの研究拠点として割り当てられるスペース。規模や内容によって部屋が割り振られ、必要な機材が各部屋に導入されています。

施設紹介



図書館

ワークショップ24 | 1F

図書館では、情報、科学、芸術関連の専門書を中心として、現在約4万8千冊の図書や逐次刊行物を所蔵し、ビデオ、DVD等3千点以上の視聴覚資料を視聴することができます。研究資料の検索などのサービスも行っています。



イノベーション工房

ワークショップ24 | 1F

ディレクター：小林茂

3Dプリンターやレーザー加工機、CNCなどのデジタル工作機械や、3Dモデリング機器を備えた工房。見たり、触れたり、感じたりできるプロトタイプをつくりながら、アイデアを発展させる拠点です。

産業文化研究センター[RCIC]

地域連携・産学官連携活動



イアマスこどもだいがく

「イアマスこどもだいがく」は、IAMASの研究や設備を用いた子ども向け講座で、2017年より大垣市と連携し、毎年開催しています。様々なメディアを使用したユニークな表現体験を通して、子どもたちのテクノロジーを多様に活用する力、ひいては新しい「もの」や「こと」を創造する力の育成を目指しています。6年目となる2022年には、マイコンやセンサー、プロジェクターなどのICT機器を取り入れながら、「防災」と「プログラミング」を題材とした2つの講座を実践しました。



「ジュニア宇宙博士認定講座」における学習環境デザインの実践的研究

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館が実施する子ども向け講座「ジュニア宇宙博士認定講座」の学習資源を活かした学習環境のデザインングを、IAMASの施設「イノベーション工房」を用い、博物館や本学の卒業生と連携して展開しました。子どもたちの意欲を高められるような学習環境の提供を目指し、今年度のテーマ「ロケット」をモチーフに講座のトータルデザインを意識した教材の開発に取り組みました。

文化活動



Ogaki Mini Maker Faire

Maker Faireは、電子工作、クラフト、ロボティクス、モビリティ、科学、アート/デザイン、電子楽器など、様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさを共有するDIYの祭典です。Mini Maker Faireはコミュニティが主催するローカル版であり、2010年より隔年で開催してきた大垣は、2022年で7回目の開催となりました。2022年は物理会場（ソフトピアジャパンセンタービル）に加えて、〈メタバース〉会場での開催も実施しました。

広報・情報アーカイブ活動



Kioskを使った展示型広報の展開

さまざまな場所でIAMASの学校紹介・連携活動報告を紹介することのできる展示方式の広報について計画し、空間デザインシステム「Kiosk」を用いて、企画から施工までを卒業生のデザインコレクティブ「LAP」と協働して行っています。2022年はIAMAS OPEN HOUSE 2022、大垣市役所、IAMAS2023での展示を行いました。

学費

- **学生（博士前期課程および博士後期課程）**
 - 入学検定料：30,000円
 - 入学金：226,000円（県内）・338,000円（県外）
 - 授業料：年額535,800円
- **研究生**
 - 入学検定料：9,800円
 - 入学金：67,700円（県内）・101,500円（県外）
 - 授業料：月額29,700円（年額356,400円）

研究教育の特色

1. プロジェクトを主軸とした社会的実践
2. 多分野の教員によるチーム・ティーチング
3. 専門的かつ総合的知識と技術を習得する充実したカリキュラム

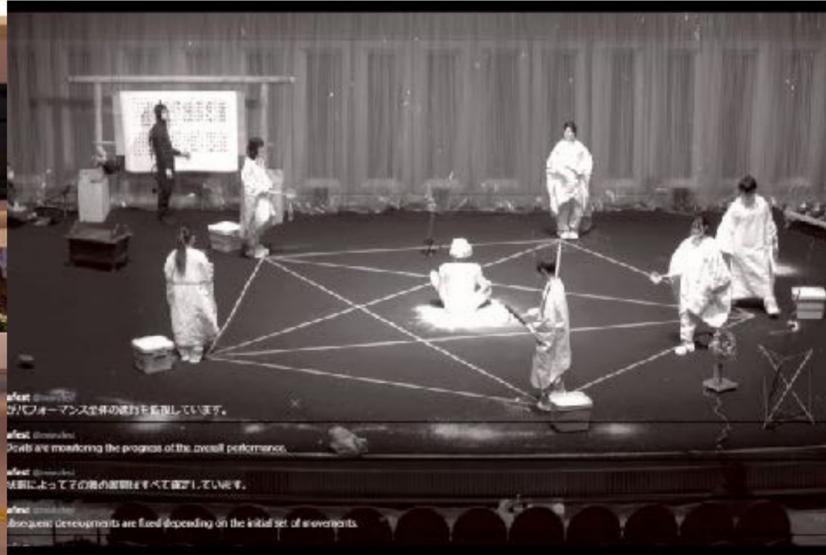
本学におけるプロジェクト

- 社会と接続した協働活動により高度な研究成果を目指す研究活動
- 博士前期課程(修士)では教員が立案・運営
- 博士後期課程(博士)では学生が立案して教員の指導の下で運営

プロジェクト実習(2023年度博士前期課程の場合)



体験拡張表現プロジェクト



タイムベースドメディア・プロジェクト



福祉の技術プロジェクト3



場所・感覚・メディア



Collaborative Design Research Project



運動体設計



The Art of Listening

本学におけるチーム・ティーチング

- 研究室制ではないため、研究室の壁がない
- 3名の教員（主指導教員：1名＋副指導教員：2名）で中心となるチームを構成
- 中心となるチーム以外の教員全員もチームとなって指導

教員紹介

18名18分野の教員が個人研究やプロジェクトを通じて、領域を横断しながら学生とともに活動しています。建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を目的として、研究指導を行います。

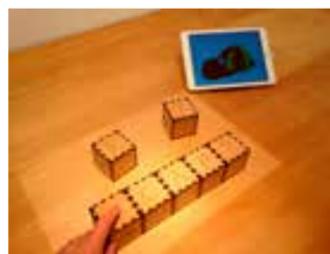
※Dは博士後期課程(博士)指導教員



学長・教授
鈴木宣也 D
Suzuki Nobuya

情報・デザイン工学

メディアや情報通信技術を用いたプロダクトなどのプロトタイプ制作とそのインタラクション・サービスデザインを研究対象とする。アート、デザイン、工学などの複合領域を横断し、展示運営なども実践する。



《つみきでえいご》
英語とプログラミング
を組み合わせた積み木
型ツール



産業文化研究センター長・教授
赤羽亨 D
Akabane Kyo

インタラクションデザイン

インタラクションデザインに焦点をあてて、メディアテクノロジーを使った表現の研究を行っている。メディア表現を扱ったワークショップ開発や、その内容を共有するためのアーカイブ手法の研究にも取り組んでいる。



「3Dスキャニング技術を用いたインタラクティブアートの時空間アーカイブ」
撮影風景



教授
金山智子 D
Kanayama Tomoko

メディア・コミュニケーション

過疎地やマイノリティ、災害などをメディアコミュニケーションから長期的に研究、オルタナティブメディアの実践にも取り組む。近年は記憶、レジリエンス、ケア、連関をキーワードに実践プロジェクトを通し、これからの社会について探求。



奄美大島のディ!ウェイブ
で参与観察



研究科長・教授
赤松正行 D
Akamatsu Masayuki

クリティカル・サイクリング

モビリティとリアリティをテーマとして、インタラクティブな音楽や映像、モバイル・アプリ、ウェアラブル・デバイスなどを制作。近年は自転車に取り組んでいる。活動として書籍『Maxの教科書』、情報端末「雰囲気メガネ」など。



モバイルAR(拡張現実感)によるアート表現を
探求するARARTプロ
ジェクトの展覧会風景



図書館長・教授
松井茂
Matsui Shigeru

詩、映像メディア学

20世紀後半のメディア表現の基礎研究として、マス・メディアと芸術の関係性を主題に、美術家、音楽家、建築家、詩人、放送人が関わる「流通するイメージとメディアの中の風景」を研究している。



「マスメディアの中の芸術家像」(国際日本文化研究センター)での研究会資料



教授
クワクボリョウタ D
Kuwakubo Ryota

メディア・アート

点光源を動かしながら日用品などの影を室内に投影するインスタレーションあるいは映像作品を制作。映像ならではの特性を利用して、見る者それぞれの記憶を喚起し内的な体験をもたらす作品を国内外で発表している。



《LOST#7》
点光源を備えた鉄道模型を走らせ、日用品を並べて室内に影を映し出す
インスタレーション

教員紹介



教授

小林茂 D

Kobayashi Shigeru

テクノロジーの哲学

人工知能などのテクノロジーは、中立の単なる道具でもなければ不可避で抗えない決定論的なものでもなく自在に解釈できるものであると捉え、多様な人々が手触り感を持って議論に参加できるような手法を探求している。



限界集落を日本の近未来と捉え、IoTの可能性と課題を考えるワークショップを実施



教授

小林孝浩 D

Kobayashi Takahiro

情報システム工学

自身の農地問題をきっかけに、小規模農家だからこその実践的な活動を行う。太陽光発電を備えた農業施設や移動販売車を製作するなど、ヤーコン栽培を軸に、今の社会において工学の専門家が提案できることを模索。



廃材を利用したヤーコン茶焙煎機(回転式攪拌器)と熱源としてのロケットストーブ



教授

小林昌廣

Kobayashi Masahiro

表象文化論

医学と哲学と芸術による三角形の中心に「身体」をすえ、独自の身体論を展開。医学史・医療人類学から見た身体、古典芸能から見た身体、そして現代思想から見た身体などについて横断的に考察している。



「岐阜おおがきピエンナーレ2015」クロージングトーク



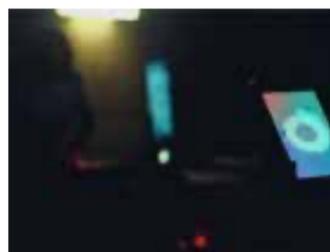
教授

平林真実 D

Hirabayashi Masami

コミュニケーションシステム

Web構造解析、位置情報ベースの研究／作品などをはじめ、近年は音楽体験を拡張するためのシステムの研究を行う。NxPC.Lab 名義でクラブイベントを開催することで、音楽会場で実践的な展開を行う。



《Sense of Space》高可聴域音IDを使った参加型音楽作品(Kafukaと共作)



教授

前田真二郎 D

Maeda Shinjiro

映像表現

映画、美術、メディアアートといった分野を横断し、国内外の展覧会や映画祭で発表。他領域アーティストとのコラボレーション、展覧会の企画、映像レーベルのオーガナイズなども積極的にすすめている。



日々《変容の対象》／愛知県芸術劇場室内楽と映像によるアンサンブル



教授

前林明次

Maebayashi Akitsugu

メディア・アート

身体と環境のインターフェイスとしての「音」に焦点をあてたメディア・アート作品を発表してきた。近年は、「音」を手掛かりに、「場所」に対する創造力を喚起するための作品制作を行っている。



展覧会「場所をつくる旅」(岐阜県美術館)明治期の沖縄の風景画と立体音響による展示



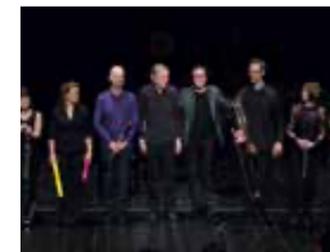
教授

三輪真弘 D

Miwa Masahiro

作曲、現代音楽

コンピュータを用いたアルゴリズム・コンポジションと呼ばれる手法で数多くの作品を発表。また、佐近田展康との「フォルマント兄弟」として、多岐にわたる活動を展開している。



「Hybrid Music」コンサートで《ひとのきえさり》を日本初演(愛知芸術文化センター)



教授

山田晃嗣 D

Yamada Koji

情報工学

ネットワークの使い方や情報の共有のしかたに関する研究を行っている。最近は障がい者を技術的に支援をする研究にも取り組み、ネットワークを活用した方法、タブレット端末を利用した方法など行っている。



特別支援学校の子どもたちへタブレット端末を活用した就労支援の方法を提案している

教員紹介



教授

吉田茂樹

Yoshida Shigeki

ネットワーク工学

インターネット黎明期以前からWIDEプロジェクトにおいて研究をする他、教育機関や行政関連のネットワークシステム構築に関わってきた。現在はITに関する教育・啓蒙やコミュニティ形成、社会応用を活動としている。



岐阜イノベーションセンターにてIoT関連の勉強会・研究会を実施



准教授

大久保美紀

Okubo Miki

美学、芸術学

デジタルデバイスで実践する様々な自己表象行為を、身体意識やアイデンティティの観点から研究する。芸術の共感可能性と両義的な概念〈ファルマコン〉に着眼し、新しいエコロジー思想のためのキュレーション・作品制作を行う。



《Homéopathie》
(2019):代替医療の可能性に着目した参加型インスタレーション(「ファルマコン 連鎖/反応」での展示風景、京都)



准教授

瀬川晃

Segawa Akira

グラフィックデザイン

展覧会・学会の広報ツールからサイン、記録冊子までトータルにデザインおよびディレクションを行う。近年は食、交通、史跡など暮らしを取り巻く身近な環境とデザインの関わりに注力している。



「パンタグラフィー 線で描かれるもの」
(養老アート・ピクニック 2018)



准教授

ホアン・マヌエル・カストロ

Juan Manuel Castro

メディア・アート

化学、合成生物学、宇宙生物学などの分野を交差させて、制作活動を展開。生命らしい特性を備えた物質システムを開発し、生命の起源と未来をテーマにハイブリッド・インスタレーション作品を発表。



《MATTER does MATTER 2019》
水面で動き、分裂するキネティック油滴。油滴は自らに近いコピーを生成する

特別非常勤講師

会田大也 山口情報芸術センター[YCAM]学芸普及課長

青木聖也 アーティスト
京都精華大学メディア表現学部講師

安藤英由樹 大阪芸術大学アートサイエンス学科教授
大阪大学大学院情報科学研究科招聘教授

安藤泰彦 現代美術作家(KOSUGI+ANDO)

飯田豊 立命館大学産業社会学部現代社会学科教授

大西暢夫

大澤悟 デザインエンジニア(株式会社Takram)

小田原のどか

門林岳史 関西大学文学部総合人文学科映像文化専修教授

狩野幹人

木村悟之 映像作家
EIZO WORKSHOP 主宰

佐藤知久 京都市立芸術大学芸術資源研究センター教授

四方幸子 キュレーター
美術評論家連盟会長
多摩美術大学・東京造形大学客員教授

関口敦仁 愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科教授

立石祥子 中部大学人文学部コミュニケーション学科 助教

廣瀬周士 美術作家、sketch on 主宰

福原志保 アーティスト
Technology Integration Lead (Google ATAP)

伏田昌弘 東京コンピュータサービス株式会社

松田愛 富山大学 学術研究部 芸術文化学系 講師

大和比呂志 音楽家・エンジニア
シグナル・コンポーズ株式会社代表取締役

山邊真幸 デザインとプログラミング株式会社代表取締役
明星大学デザイン学部非常勤講師
武蔵野美術大学教養文化科目群非常勤講師

山野弘樹 哲学研究者

渡部葉子 慶應義塾大学アート・センター教授
キュレーター

博士前期課程(修士)

修了要件

- 2年間在学、特例で1年間在学
- 30単位取得
- 修士作品と修士論文、または修士論文のみ

修士作品

- 展示や上演の形式によって審査される作品
- 研究に伴う制作物

修士論文

- **修士論文のみの場合**
 - 概要1ページ(日本語・英語)
 - 本文50ページ程度
- **修士作品+修士論文の場合**
 - 概要1ページ(日本語・英語)
 - 本文25ページ程度
- **1ページの目安**
 - A4用紙、和文1,000文字、英文500ワード

科目構成

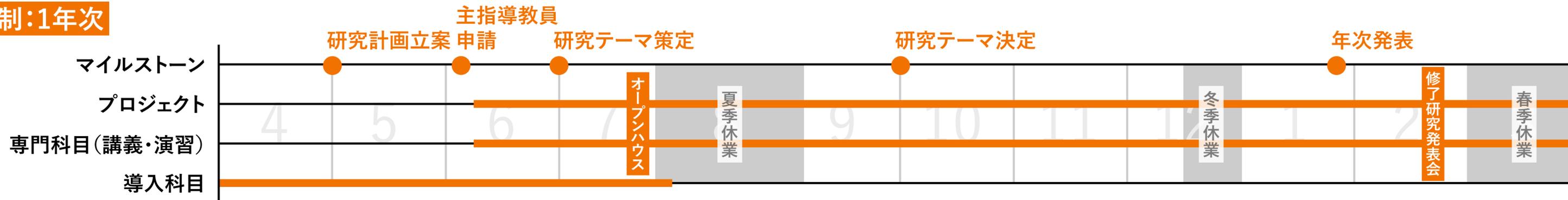
導入科目 (演習+講義) すべて必修	総合科目 (講義) 2科目以上選択	専門科目 (講義) 3科目以上選択	制作演習科目 (演習) 制作基礎必修+1科目以上選択	プロジェクト科目 (実習) 1年時必修	特別研究科目 (ゼミ・個人指導) すべて必修
メディア表現基礎1 (導入・紹介) ●	総合学A	メディア表現特論A (表現×情報・メディア)	制作基礎 ●	プロジェクト実習 1A/1Ai ●	特別研究 1A/1Ai ●
メディア表現基礎2 (制作・展示) ●	総合学B	メディア表現特論B (表現×身体・環境)	メディアデザイン演習	プロジェクト実習 1B/1Bi ●	特別研究 1B/1Bi ●
メディア表現基礎3 (思索・講義) ●	総合学C ▽	メディア表現特論C (表現×科学・社会)	メディウム・インタラクション 演習	プロジェクト実習 2A ▽	特別研究 2A ●▽
メディア表現基礎4 (創造・記述) ●		メディア表現特論D (設計×情報・メディア)	情報工学演習	プロジェクト実習 2B ▽	特別研究 2B ●▽
		メディア表現特論E (設計×身体・環境)	デザインエンジニアリング 演習		
		メディア表現特論F (設計×科学・社会)			

●…必修科目 / ▽…2年次科目

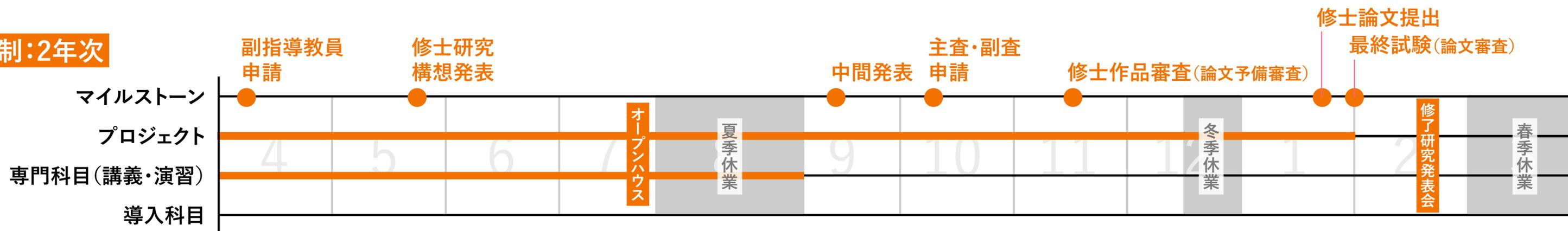
博士前期課程(修士)スケジュール

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

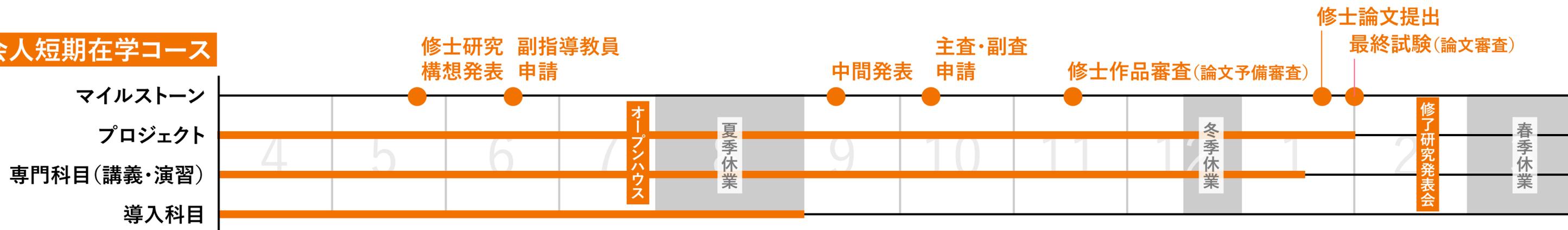
2年制:1年次



2年制:2年次



社会人短期在学コース



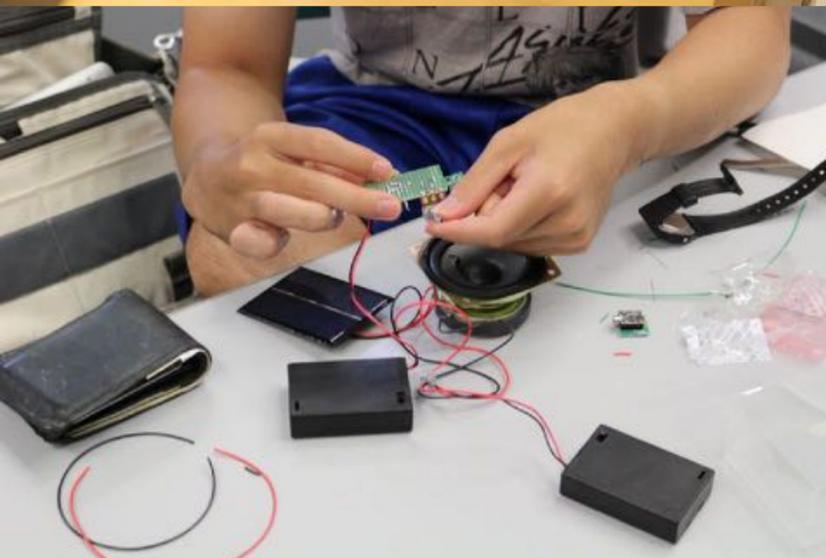
受験前:研究テーマ・主指導教員策定



講義・特別研究



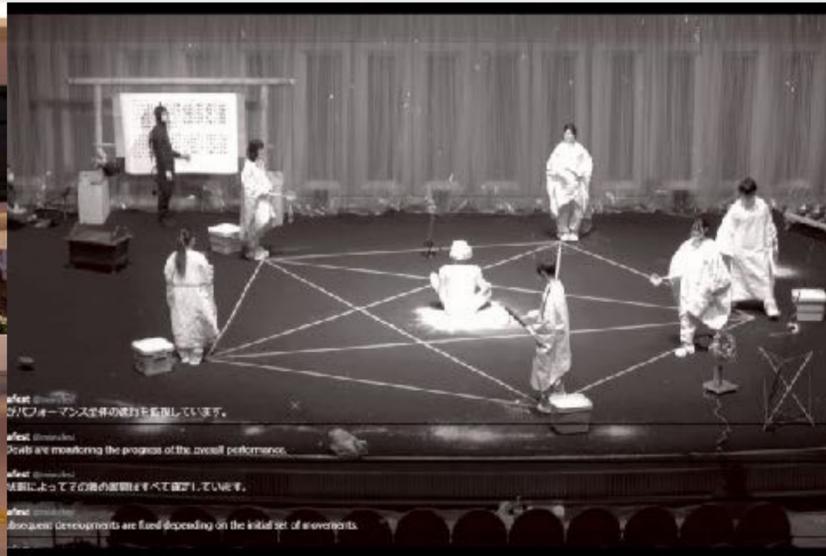
制作演習



プロジェクト実習(2023年度博士前期課程の場合)



体験拡張表現プロジェクト



タイムベースドメディア・プロジェクト



福祉の技術プロジェクト3



場所・感覚・メディア



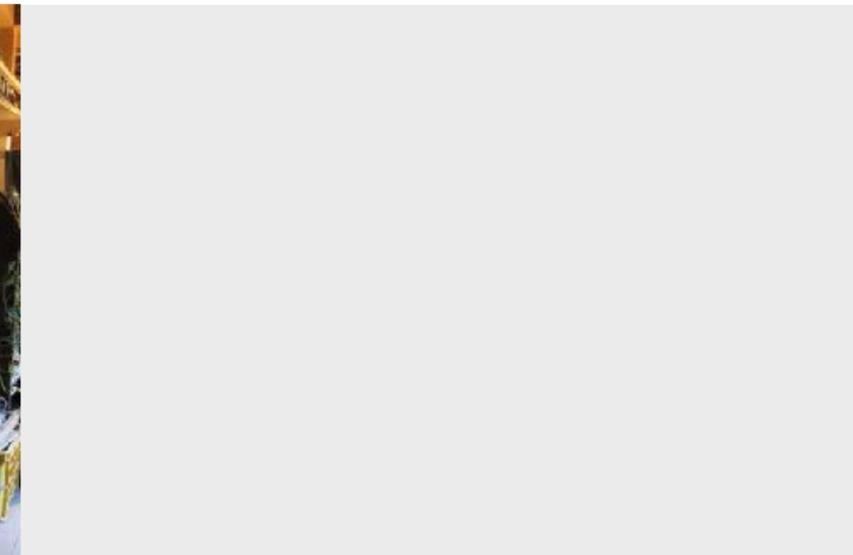
Collaborative Design Research Project



運動体設計



The Art of Listening



奨学金・交換留学制度

- **奨学金制度**

- 情報科学芸術大学院大学特別給費生報償金
- 大垣市情報科学芸術大学院大学報奨金

- **交換留学制度**

- リンツ美術工芸大学(オーストリア)

博士後期課程(博士)

修了要件

- 3年間在学
- 16単位取得
- 博士論文提出資格
- 博士論文

博士論文提出資格

- 査読付き論文2編＋国際会議発表1回
- 査読付き論文1編＋コンテスト入賞1回＋国際会議発表1回
- 単著出版1編＋国際会議発表1回
- ユニークな研究業績＋国際会議発表1回

※作品は資格対象ではありません

ディプロマ・ポリシー

1. 専門性を有しながら科学的知性と芸術的感性を融合し、自立した教育研究者・芸術家・実務家として、自立して研究活動を推進する研究遂行力を身に付けたか。
2. 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々へ積極的に関わり合い、領域横断しながら、その交流の中から生み出される「新しい知」の在り方を身につけ、プロジェクトの企画から実践まで遂行することができたか。
3. 高い倫理性と強い責任感を意識し、研究が現代社会の諸課題に対する応答としての成果を得、メディア表現に関する研究実践から導かれた理論化・体系化の成果を論文へまとめ、それら成果を広く社会へ発信することができたか。

科目構成

導入科目 (講義) <u>メディア表現研究は必修</u>	プロジェクト科目 (実習) <u>すべて必修</u>	特別科目研究 (ゼミ・個人指導) <u>すべて必修</u>
メディア表現研究I ●	プロジェクト研究I ●	メディア表現特別研究I ●
メディア表現研究II ●	プロジェクト研究II ●▽	メディア表現特別研究II ●▽
知的財産権特論		メディア表現特別研究III ●◇

●…必修科目 / ▽…2年次科目 / ◇…3年次科目

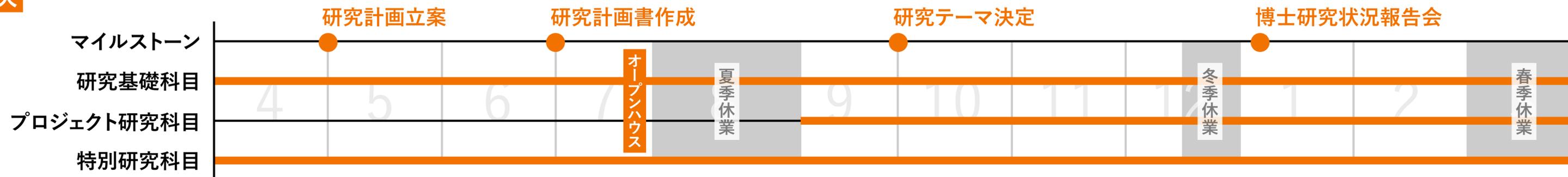
プロジェクト研究I・II

- 学生が立案し、主指導教員の指導の下で運営
- プロジェクト研究Iの期間に研究計画を提出し、審査を経て学内研究予算(2022年度の例では最高30万円)を獲得し、プロジェクト研究IIの期間に運用
- 博士前期課程学生の履修対象ではない

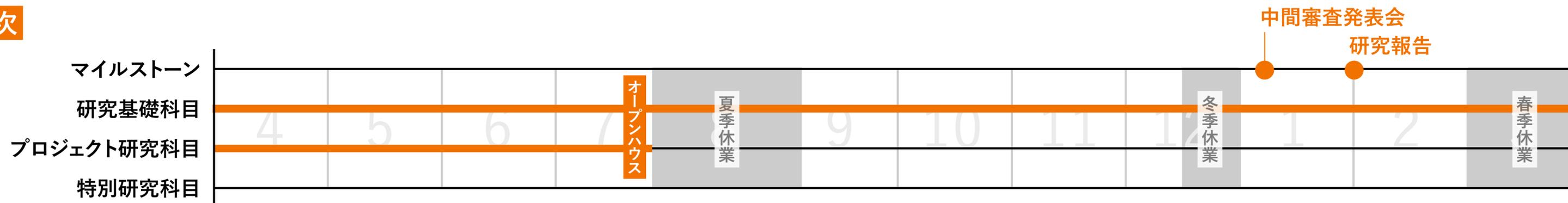
博士後期課程(博士)スケジュール

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

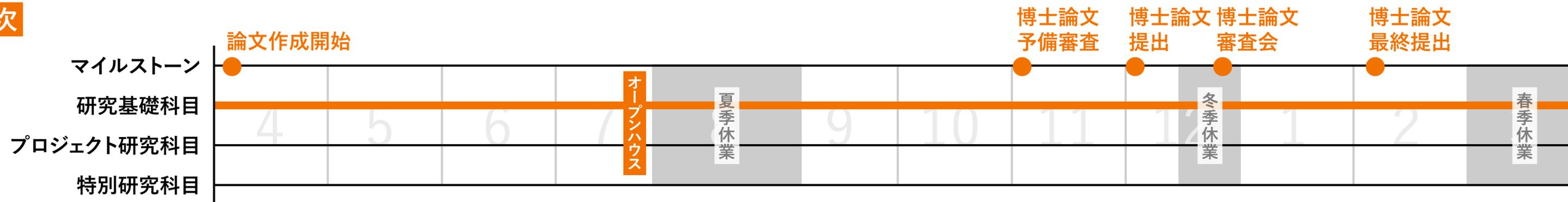
1年次



2年次



3年次



研究生制度

研究生制度

- 特定の研究課題に関する研究を希望する方を対象とする制度
- 入学時に許可された研究課題および研究計画により、指導教員のもとで研究に従事
- 学位や単位は付与されない

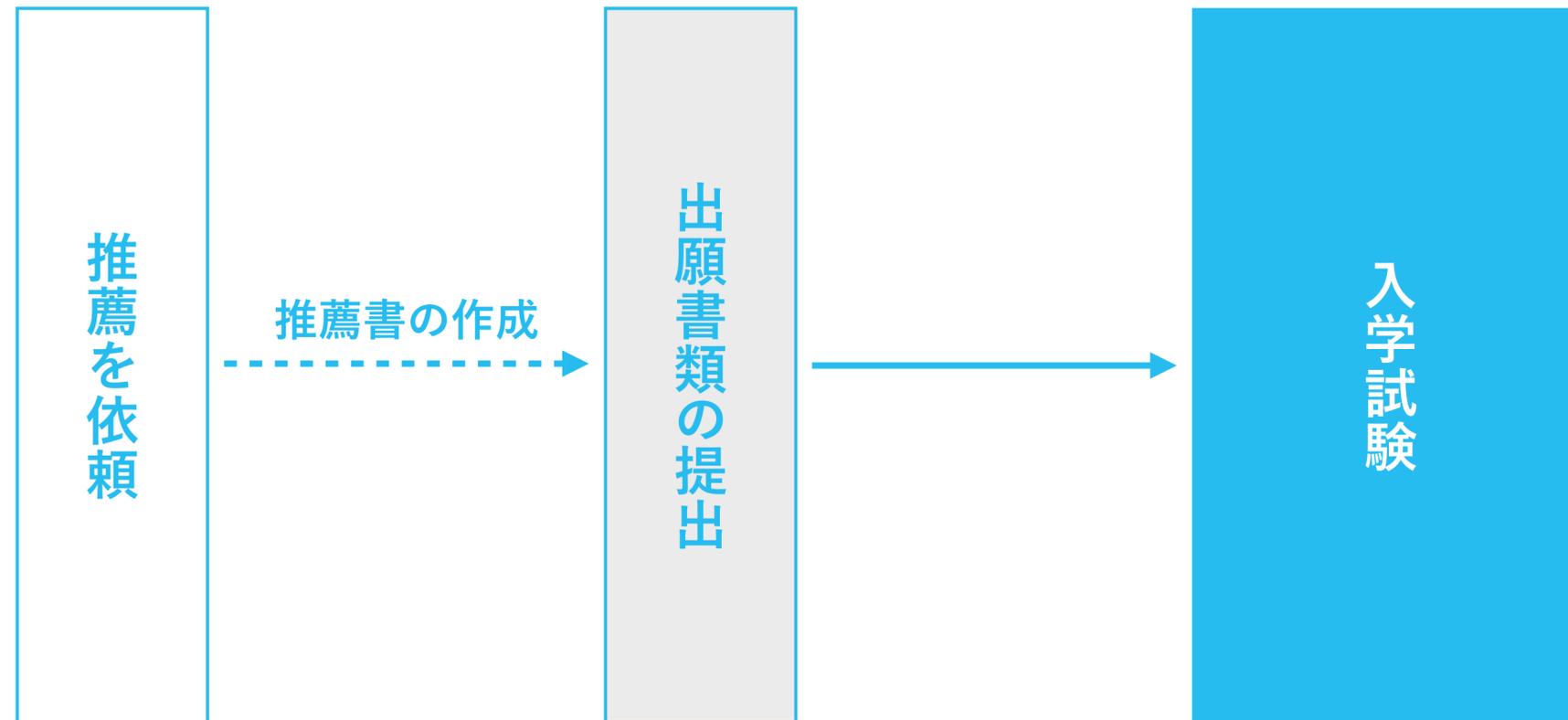
博士前期課程(修士)入試

博士前期課程（修士）入試について

- **2年制コース**
 - 推薦入試
 - 一般入試
- **1年制コース**
 - 社会人短期在学コース入試

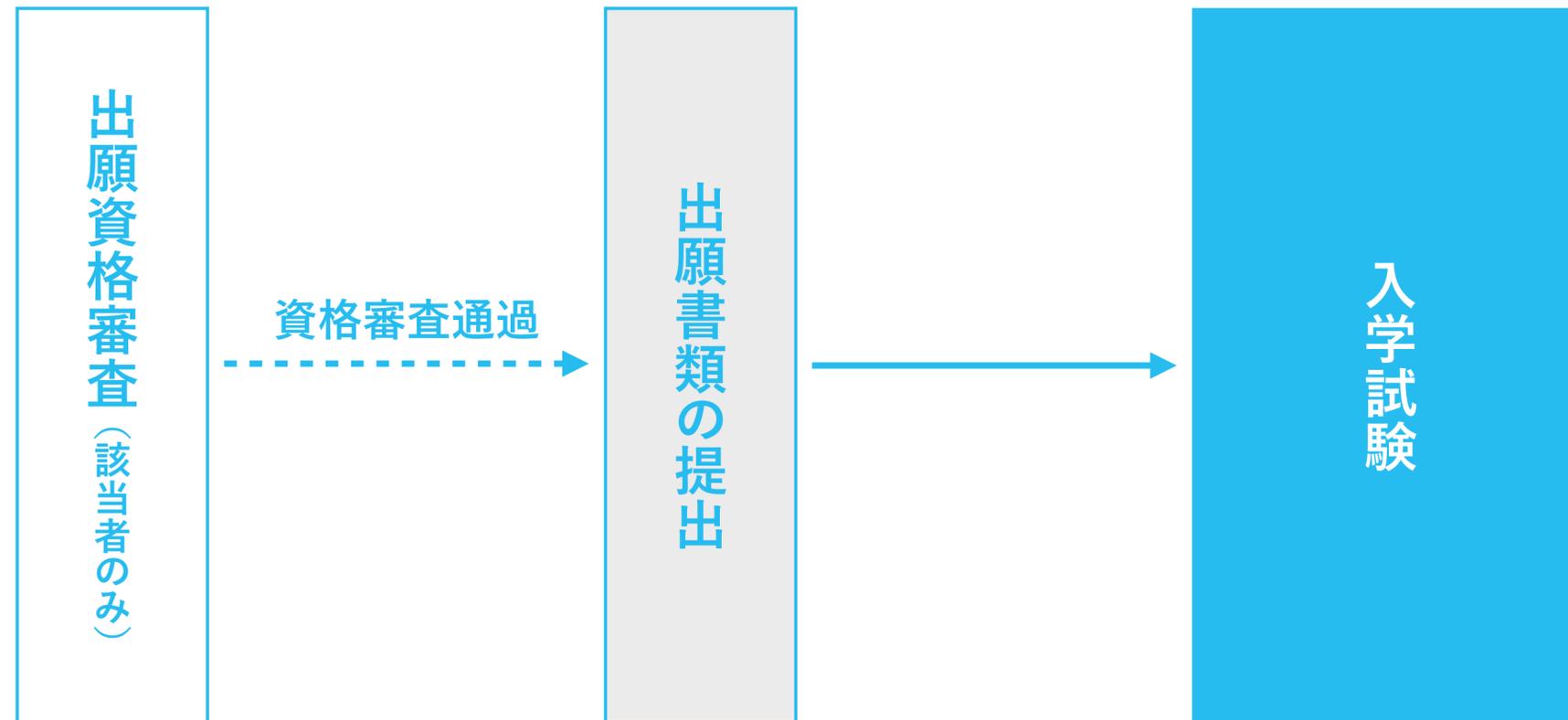
推薦入試(6月)

1. 書類審査
2. 面接試験(プレゼン:10分+質疑応答:20分)



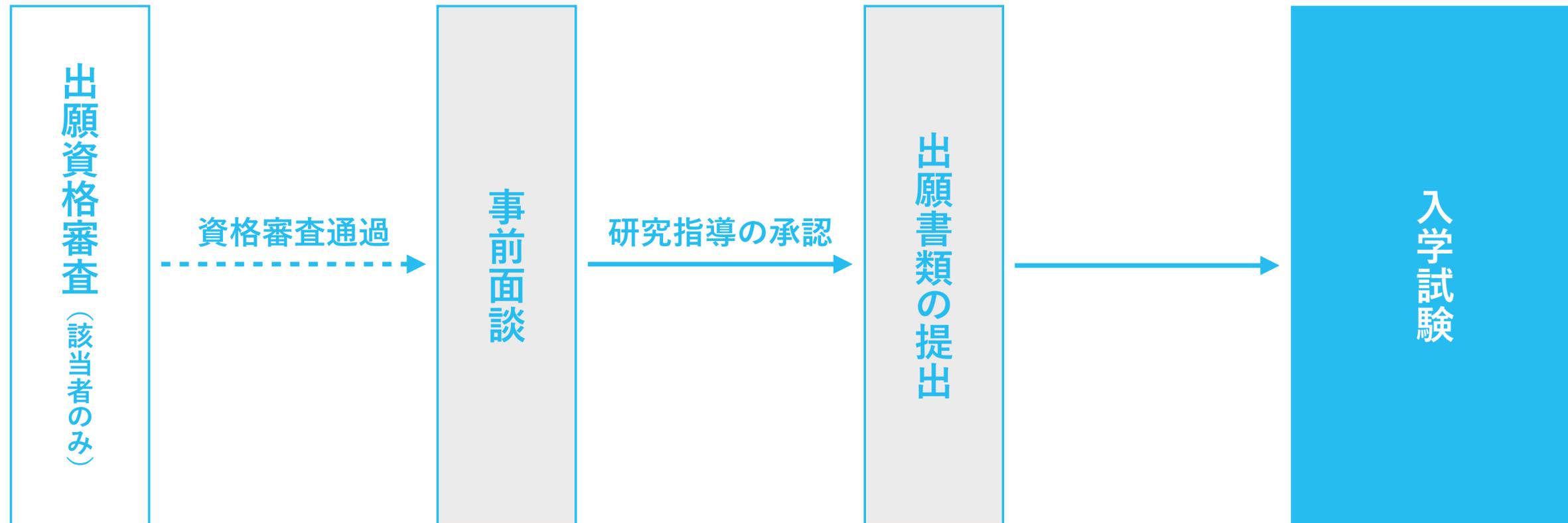
一般入試(10・2月)

1. 書類審査
2. 面接試験(プレゼン:5分+質疑応答:20分)



社会人短期在学コース入試(6・10・2月)

1. 書類審査
2. 面接試験(プレゼン:10分+質疑応答:20分)



※10・2月入試のみ

博士前期課程入試：必要な書類

- 入学願書
- 選考資料
- 推薦書・入学確約書(推薦入試のみ)
- 研究指導承認書(社会人短期在学コース入試のみ)
- 語学能力の成績通知書(該当者のみ)

※詳細は募集要項を参照してください

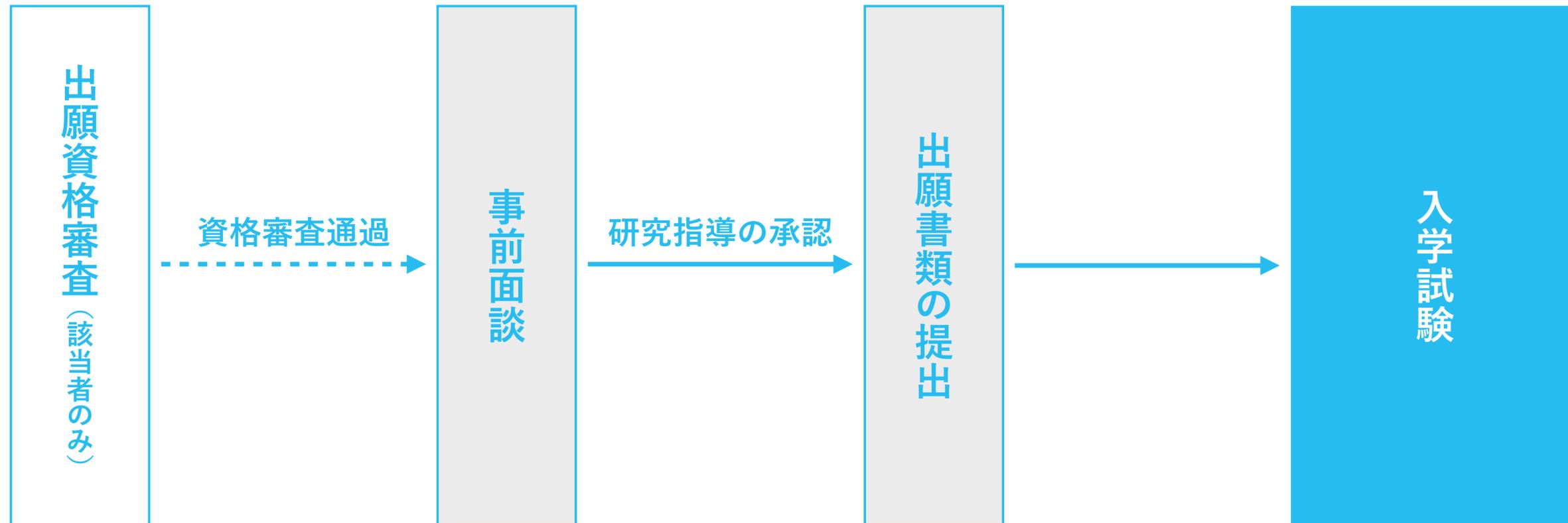
日本語を母語としない人について

- **日本語で論文を書くことを予定している場合**
 - 日本語能力試験の成績通知書(N1) または
日本留学試験の成績通知書(読解・聴解・聴読解:280点以上、記述:35点以上)
- **英語で論文を書くことを予定している場合**
 - 日本語能力試験の成績通知書(N2以上) または
日本留学試験の成績通知書(読解・聴解・聴読解:240点以上、記述30点以上)
 - TOEFL iBTの成績通知書(90点以上) または
IELTSの成績通知書(6.5以上)

博士後期課程(博士)入試

博士後期課程入試(6・10・2月)

1. 書類審査
2. 面接審査(プレゼンテーション:15分間+口頭試問:30分間)



※10・2月入試のみ

博士後期課程入試：必要な書類

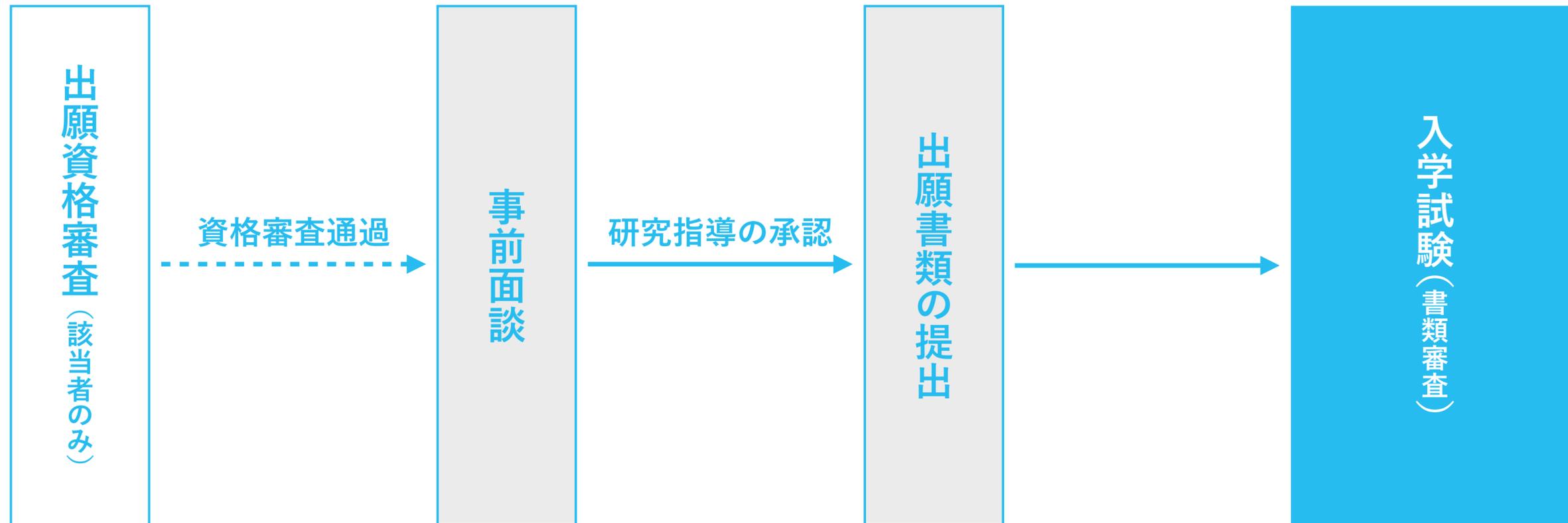
- 入学願書
- 志望動機および研究計画
- 審査選考資料
- 研究指導承認書
- TOEFL iBTの試験結果
- 日本語能力の成績通知書(私費外国人留学生で日本語を母語としない場合)

※詳細は募集要項を参照してください

研究生入試

研究生入試(6・2月)

1. 書類審査



研究生入試：必要な書類

- 入学願書
- 研究計画書
- 研究指導承認書
- 日本語能力の成績通知書（日本語を母語としない場合）

※詳細はWebサイトを参照してください

https://www.iamas.ac.jp/research_student/

資料：全般

- **大学案内パンフレット**
 - <https://www.iamas.ac.jp/pamphlet/>
- **IAMAS Annual**
 - <https://www.iamas.ac.jp/annual/>
- **修士論文の公開(2015年度以降修了者・要旨のみ)**
 - <https://www.iamas.ac.jp/repository/>
- **情報科学芸術大学院大学紀要**
 - <https://www.iamas.ac.jp/iamasbooks/category/journal/>

資料：活動全般について

- **IAMAS Channel**
 - <https://www.youtube.com/user/IAMASchannel/>
- **卒業生インタビュー**
 - <https://www.iamas.ac.jp/interview/>
- **産業文化研究センター[RCIC]**
 - <https://www.iamas.ac.jp/rcic/>